



研究部会報告

●政策科学（関西）●

●第9回

日時：昭和61年2月15日（土） 14:00～17:00

場所：芦大クラブ 出席者：19名

講演者および講演題目：

- (1) 「プロセス産業の生産システム工学」 湊 晋平
(武田薬品工業㈱ ファインケミカル事業部)

(2) 「FAの現状と将来」

人見勝人（京都大学工学部）

内容：

(1) 機械工業だけでなくプロセス産業でも、生産技術と経営管理の総合化された生産システム工学の存在が必要である。「プロセス産業のIE」のシステムズ・アプローチとして「生産システム工学」をとらえ、プロポーザルと考え方を報告。

(2) FAを理論、歴史、政策から検討する。機械工業におけるFAの現状、FAの理論である生産システム工学を紹介。物の流れ、管理情報の流れ、技術情報の流れを統括するコンピュータ統括生産システムCIMSの概念

●ミニ●ミニ●OR●

アーノルド・ベックリン「死の島」の遠近法

1986年2月、国立近代美術館で行なわれた19世紀ドイツ絵画名作展でアーノルド・ベックリン「死の島」(1883)を見た。縦1m、横2mほどの絵で、発表された当時その複製がドイツの多くの家庭に飾られたほど人気のあったものだという。

どんよりと曇った空の下、鉛色に静まりかえった湖面に浮かぶ死の島の入江には、鬱蒼とした樹木が、これを取り囲む岩山よりも、高く、黒々とそびえる。小舟の上に佇立する白衣の人物と前によこたえられた死者の棺。死者を迎える舟着き場と、岩山の中程に作られた洞窟は切り石でととのえられ、その直線が樹木や岩山の自然とコントラストをなしている。……全体としての暗い色調の他に、アンバランスな印象は、不安とおののきをいだかせる。

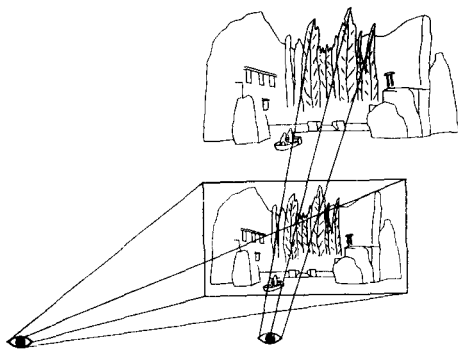
5mの距離から見るときこの絵が与えるこの印象は、ゆっくりと歩いて接近するにつれ、さらに強調さ

れる。歩みにつれて揺れる視点から、しだいに迫る岩肌の細部を見れば、波に揺られているような錯覚を覚える。白衣の死者との一体感がかもしだされる。こうして、ほとんど触れそうな所まで絵に近づくと、目の高さは絵の下から20cmぐらいの所にきて、樹々と岩山を見上げる位置にくる。

画家が用いた遠近法上の視点は多分ここにあるのだろう。樹木が岩山より高く、圧倒的に見えるのも正しくこの点からでなければならぬ。しかし同時に、遠くから見たときの不自然さは、見る者をどうしても接近して見たいという衝動にかりたてる。画家は動的かつ緻密な計算によって、見る者を幻想の世界に引きずりこもうというその意図を達成した。

(からくり堂主人)

*名画も「のぞきからくり」になってしまったようです。



図をDSS, OAと関連づけてえがき, FAの将来を展望する。

●OR/MSとシステムマネジメント●

●第10回

日時: 2月22日 13:30~16:30

場所: 東京工業大学システム科学専攻会議室

出席者: 18名

テーマ: 計画策定の行動科学…1つの手がかり—Implementation

講師: 友安一夫 (日本大学)

過去3回の文献講読で検討してきたことのまとめとして, 実施問題と人間行動の関係が論じられた。特に計画

策定の場合, 計画書そのものに加えて計画実施における人間行動の研究方向に対する示唆が与えられた。

●第11回

日時: 3月15日 13:30~16:30

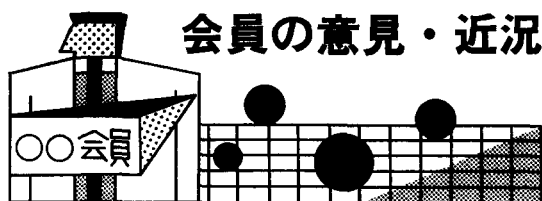
場所: 東京工業大学システム科学専攻会議室

出席者: 17名

テーマ: 銀行オンラインの実施戦略

講師: 根本忠明 (青山学院大学)

最近の銀行のオンラインの実情, および銀行をとりまく諸環境の変動について発表がなされ, さらに今後の銀行の経営戦略が情報技術にどのような影響を与えるか, 逆に情報技術が銀行の経営戦略をどのように方向づけるかなどについて議論がかわされた。



東京工業大学工学部経営工学科 白川 浩

高度情報化社会をむかえて, 経営資源としての情報の役割が, これまで以上に重要になりつつあることは, すでに多くの方々によって指摘されている。しかし, それでは経営上役に立つ情報とはどのようにして得られるのかと考えると, 考えこんでしまうことが多い。

今日まで, ORの理論として数多くの解析手法が開発され, 重要な知的資産として活用されている。しかし, その適用の多くが, それぞれの個々の理論の立場からのものであり, 経営システム全体をとらえた上での利用方法 (方法論) については, 不十分であるように思う。もちろん, 個々の部分的改善は, やがて全体的改善をもたらす場合が多いであろう。しかし, 今日のように, 経営環境の変化のはげしい時代においては, 経営システム全体が, 戦略的に適応行動をとることが要求されている。

その意味で, OR理論が, 経営システムの全体的な構造把握をした上で, 経営上の戦略的方法論として利用で

きるように, 一層充実されることを望みたいと思います。

東京都立科学技術大学 小田中 敏 男

この4月から本学もやっと4年制工科大学に昇格することとなり, 上のような名前がつけました。よろしくお願ひ申し上げます。ORは管理工学科で講義され, 新任の山崎源治君が担当することとなります。学科につきましてははいずれくわしい紹介があるでしょう。

新大学設立を記念して, 私もこれまでのささやかな研究成果をまとめ, "Optimal Inventory Processes"として, 英文で出版いたしました。本書は主として動的計画法の立場から最適在庫過程に対し, 解析的数値的考察を加えたもので, 経営への応用を心がけております。特に主題であります在庫に関する情報と決定との関係は, 在庫調査と発注政策に関して適切な精度設計を示唆すると思います。練習問題をつけました。ORおよび関連分野の学生, 教育者, 技術者に多大の便宜を与えると信じます。

内容は, 主要目次: 緒言/決定論理在庫問題/量の近似/時間の近似/最小-最大解/ベイズ解/期間に関する平均費用/集中管理/確率基準/情報と決定/索引, となっています。

本書に関するお問合せは, K.K.カタクラ・リブリ (Tel.03(815)1800) へどうぞ。

会合記録

() 内は出席者人数
庶務幹事会 2月6日(木)(5)

編集委員会(OR誌)

2月5日(水)(7)

表彰委員会

2月10日(月)(7)

研究部会主査会議 2月25日(火)(13)

研究小委員会 3月4日(火)(6)

編集委員会(OR誌)

3月5日(水)(12)

普及小委員会 3月6日(木)(3)